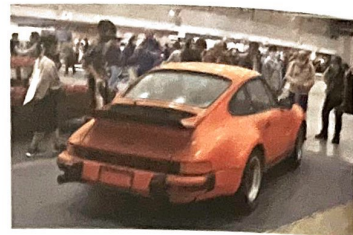


RENDEZ-VOUS ランデヴー



夢を夢で終わらせないために

同じクラシックカーを楽しむ方策であっても、世代によってこうも発想が異なるものか。

いい意味で驚かされ納得させられた、RENDEZ-VOUSと名乗るチームからの新たなプロポーザル。

report=沼田 亨 Toru Numata photo=沼田 亨 Toru Numata, 荒川正幸 Masayuki Arakawa, RENDEZ-VOUS

オートモビルカウンスルで

去る4月、幕張メッセで開催されたオートモビルカウンスルで、出展は1台のみながら来場者が群がっているブースがあった。そこで人々の熱い視線を集めていたのは、近年、ときおり現われては話題になる、いわゆるバーンファウンドものらしきオレンジ色のポルシェ911ターボ。リアルタイムで知る者にとっては、930ターボという呼び名がしっくりくる初代の初期型である。

さっそくスタッフに素性を尋ねたところ、当時のインポーターによる正規輸入車、しかも広報車を除けば国内登録第1号となる1975年式のフルオリジナルで、直近まで30年間休眠していたワンオーナー車というではないか。そうした歴史を持つ稀少な個体には珍しく、プライスボードには「応談」ではなく金額が明記されていたのだが、なんとそれが595万円。一瞬ケタ違いかと思ったが、数字の上に「オーナー権利 1/8 枠 価格」という但し書きを見つけたのだった。

日本初の試み

このブースの出展者はRENDEZ-VOUS (ランデ

ヴー)。共同所有という新たなクラシックカーの楽しみ方を提案しているスタートアップ企業である。CEOを務めるのは浅岡亮太さん。現在31歳という浅岡さんは幼い頃からクラシックカーに囲まれた環境で育ち、自身も大のクルマ好き。大学在学中から自動車関連のネットメディアを立ち上げ、卒業後はDeNAとメルカリというメガベンチャー2社でカーシェアリングなどクルマ関連の新規事業を開拓。そこでの実績が認められてベンチャーキャピタルから投資を受け、2022年に同世代のクルマ好きの仲間とRENDEZ-VOUSを設立した。

「憧れを憧れのままで終わらせないというのが、このサービスの根本にある発想です」と浅岡さんは語る。クルマ好きならば、所有することを夢見るクルマの1台や2台はあるだろう。だが、それが高額なモデルや稀少なクラシックカーとなると、所有するのは簡単ではない。たとえ入手できたとしても、税金や保険といった維持管理費の負担は小さくない。クラシックともなれば、良好なコンディションを保つこともむずかしい。

そうした難問が立ちほだかるクラシックカー所有のハードルを下げたのが、RENDEZ-VOUSが提唱する



すでに8人の共同所有者が楽しんでいるフェラーリ・テスタロッサを囲んで、CEOの浅岡亮太さん(右からふたり目)をはじめとするRENDEZ-VOUSの主要スタッフ。

「日本初のコレクタブルカーの共同所有サービス」というのだ。具体的には8名のオーナーで1台のクルマを1年間共同所有するというもので、ひとりが負担する金額(先の911ターボならば595万円)には1/8のオーナー権利のほか、税金、保険、メンテナンス代などの維持管理費がすべて含まれている。逆をいえば、それらのほかに権利を取得した車両を走らせるためにオーナーが負担する必要があるのは、ガソリン代と有料道路代だけということになる。ちなみにひとりのオーナーが使用できるのは1年間で12日。月に1日は楽しめるというわけだ。

そう聞いたところでは、カーシェアリングと何が違うのかと思われるかもしれない。だがRENDEZ-VOUSでは、あくまで共同所有という新たな所有形態だという。その根拠のひとつとして、1年と定められた所有期間を終えた時点で車両は売却されるが、売却金は8名の共同所有者に等分配される。また8名には優先購入権が与えられ、購入することも可能だ。

新たな選択肢

「足グルマなら住まいの近くに置く必要がありますが、趣味グルマの場合は必ずしもそうではないですよ」と浅岡さんはいう。常に眺めて愛でたいとかいじりたい人は別だが、乗って楽しむ場合はそのとおりだ。ストレージサービスなどもそうした需要に応えたものだが、加えて共同所有サービスでは「ひとりで持っても、そうそう乗る機会があるものではない」という点にも着目した。同じ趣味の乗り物でも、たとえば船舶ならマリナーに係留する必要があり、共同所有も珍しいことではない。それを考えたら、趣味の対象となるクルマがすべからず個人所有である必要もないのでは? というのだ。

「私にも自分ひとりのものにしておきたいクルマはありますし、個人所有を否定するつもりは毛頭ありません。

ただ、共同所有という新たな所有形態もあれば選択肢が増え、所有のハードルが下がって旧車趣味の裾野の広がりにもつながると思うんですよ」

ちなみにRENDEZ-VOUSの車両を維持管理するのは、群馬にある国内有数のクラシックカー、コレクタブルカー専門のガレージ。そこで万全のセキュリティのもと、腕利きのメカニックによって完調に保たれて稼働するのは、クルマにとってもいいことではないかという。

RENDEZ-VOUSではこれまでにフェラーリ・テスタロッサ、同365GT4 BB、ナローのホルシェ911Sタルガの共同所有権が売却済みで、それぞれ8名、のべ24名のオーナーが楽しんでいる。現在は先の911ターボとジャガーEタイプ Srt1 4.2ロードスターがオーナーを募っており、近々R34型ニッサン・スカイラインGT-Rも加わる予定だ。

売却済みの3台の共同所有者の属性を分析した結果、クラシックカーの所有経験のある者は9%で、残りは未経験者だった。また年齢分布では20代と30代で約55%を占めた。サンプル数は少ないとはいえ、これまでクラシックカーを所有できなかった、とくに若年層の背中を押していることがこの結果からわかる。このサービスによってクラシックカーの趣味人口が増加し、将来的には高齢化が進んでいる世界における世代交代につながるかも、とっては言い過ぎだろうか。

最初に売却が決まったテスタロッサを8名のオーナーに渡す納車式の際に、予想外の光景が出現して感動したと浅岡さんは語る。

「集まったみなさんが喜びにあふれている。しかも初対面同士の、年齢も性別も異なる8名の間に早くも連帯感のようなものが生まれているんですよ。所有権が分散されても喜びは分散されない。むしろ分かち合う人がいることで喜びは増すんじゃないかとさえ思えました」

若い世代が、彼らならではの柔軟な発想から生み出した新たなクラシックカーの楽しみ方。ある意味非常に合理的でスマートだが、ビジネスライクな印象は受けない。なぜなら、発想の根底にある彼らのクルマとクルマ好きへの愛が伝わってくるからである。◎



群馬県内にある、RENDEZ-VOUSの車両を維持管理するストレージ。問い合わせ先: RENDEZ-VOUS <https://www.rendez-vous.tokyo>